

《担当者名》准教授 / 小林 大祐  
 教授 / 小島 弘幸 教授 / 浜上 尚也 准教授 / 寺崎 将 副学長 / 和田 啓爾

【概要】

衛生薬学系科目のアドバンス科目である。衛生薬学系科目では保健衛生に関して社会との関わりが密接であることから、4年次までに学修した基礎的知識を発展させ、社会的に問題となった健康に係わる事柄等を題材として最新の科学的情報を説明し、討議できることを目的とする。

【学修目標】

食品の品質と管理、公衆衛生、栄養と健康、乱用薬物とその法的規制などについて、薬剤師として医療現場や関連の現場で具体例を例示し説明できる、あるいは実践できることを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	保健統計、疫学 教科書 P. 6~52	<p>集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するうえでの人口統計の意義を概説できる。                      人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。                      人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。                      疾病の予防における疫学の役割を説明できる。                      疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。                      疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。                      リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》                      D1-(1)- -1~3                      D1-(1)- -1~4</p>	寺崎 将
2	健康と疾病の概念、疾病の予防とは、感染症とその予防、母子保健、学校保健、高齢者保健 教科書 P. 2~5、54~62、110~116、119~125	<p>健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。                      疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。                      健康増進政策（健康日本21）について概説できる。                      予防接種の意義と方法について説明できる。                      新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》                      D1-(1)- -1、D1-(2)- -1,2、D1-(2)- -4、D1-(2)- -1</p>	寺崎 将
3	感染症とその予防、母子保健 教科書 P. 63~92、116~118	<p>現代における感染症（日和見感染症、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。                      感染症における、感染症とその分類について説明できる。                      代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。                      母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》                      D1-(2)- -1,2,3、D1-(2)- -2</p>	寺崎 将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
4	生活習慣病とその予防、労働衛生教科書 P. 96～109、126～134	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。 労働衛生管理について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(2)- -1～3、D1-(2)- -1～2	寺崎 将
5	ビタミン教科書 P. 156～183	ビタミンの構造、化学的性質、生理機能、食品中の分布について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(3)- -1, 2	小林 大祐
6	食品衛生の現状教科書 P. 283～382	発生事例の多い食中毒及び食品汚染について説明できる。 食品の変質について説明できる。 食品成分由来の発がん物質について説明できる。 保健機能食品制度について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(3)- -1～7 D1-(3)- -1, 2, 3	和田 啓爾
7	食中毒と食品汚染教科書 P. 335～382	代表的な食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(3)- -1～3	浜上 尚也
8	食品機能と食品衛生教科書 P. 283～334	食品の変質について説明できる。 食品成分由来の発がん物質について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(3)- -1～7	浜上 尚也
9	化学物質による発がん教科書 P. 470～482	食品や環境中のがん原物質の活性化機構と作用機序を説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(1)- -1	小林 大祐
10	発がん機構、がん遺伝子とがん抑制遺伝子教科書 P. 484～486	発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。 がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(1)- -2, 3	小林 大祐
11	有害化学物質の代謝と毒性教科書 P. 385～433	有害化学物質の吸収・代謝・排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 第一相、第二相反応に係る主な代謝経路と代謝活性化について例を挙げて説明できる。 代表的な有害化学物質（重金属・有機化合物）の毒性の特徴について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(1)- -1～5	小島 弘幸
12	乱用薬物と中毒原因物質教科書	乱用薬物の毒性と分析方法について説明できる。 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	小島 弘幸

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	P. 433～444	関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(1)- -6,7	
13	地球環境・生態系と法的規制 教科書 P. 502～541	地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。 大気汚染および水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(2)-	小島 弘幸
14	水環境（上水・下水） 教科書 P. 542～587	水の浄化法について説明できる。 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、その測定原理について説明できる。 下水処理について説明できる。 水質汚濁の主な項目を列挙し、その測定原理について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(2)-	小島 弘幸
15	大気・室内環境と廃棄物 教科書 P. 588～616	主な大気汚染物質を列挙し、その測定原理について説明できる。 大気汚染に影響する気象要因を概説できる。 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D2-(2)-	小島 弘幸

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験の成績により評価する（100％）。

【教科書】

「衛生薬学 基礎・予防・臨床」 南江堂

【参考書】

「食品衛生学」・食の安全の科学、那須正夫・和田啓爾編集 南江堂

「健康と環境」スタンダード薬学シリーズ 5 日本薬学会編 東京化学同人

【備考】

講義中配布する資料、厚生労働省ホームページ

【学修の準備】

全ての授業で、シラバスを参照し、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するSB0のWeb問題を解くこと（50分）。

全ての授業で、授業で指示された課題について、教科書、配布プリント等を利用して授業内容を復習すること（50分）。

また、参考書やウェブなどで解決できるものは自分で積極的に知識や理解を深める努力をする。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

D1 健康

(1) 社会・集団と健康

(2) 疾病の予防

(3) 栄養と健康

D2 環境

(1) 化学物質・放射線の生体への影響

## (2) 生活環境と健康

### 【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。